

ICTを活用して発表や観察時の支援を行った事例

取組①の概要

特別支援学校（聴覚障害）小学部の総合的な学習の時間における調べ学習や自立活動における自己理解の学習（居住地校交流での発表に向けた学習）において、ICTを活用した支援を実施した。

児童のノートやプレゼンテーションソフトで作成した発表資料をスクリーンに投影しながら発表し、視覚的な情報とともに説明ができるようにした。

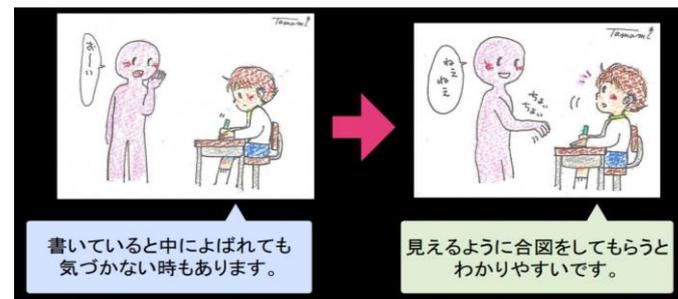
スライドはイラストと短い文で要点を示し、説明を加えながら発表するようにした。自己理解の学習では、聴覚障害による困難さと配慮してほしいことを、アニメーションを工夫して複数例示する構成にし、見通しをもって発表できた。発表練習の録画・振り返りを通して手話表現やスライドの改善を行い、児童の自信につながった。

<活用したICT>

スクリーン、プロジェクター、ICT端末（発表資料、カメラ）



調べ学習の発表



自己理解の学習（発表資料）

（授業の様子）

取組の効果

○視覚情報があることで、自信をもって発表ができるようになった。また、児童は自分の考えを言語化しながら思考をまとめることができるようになってきた。

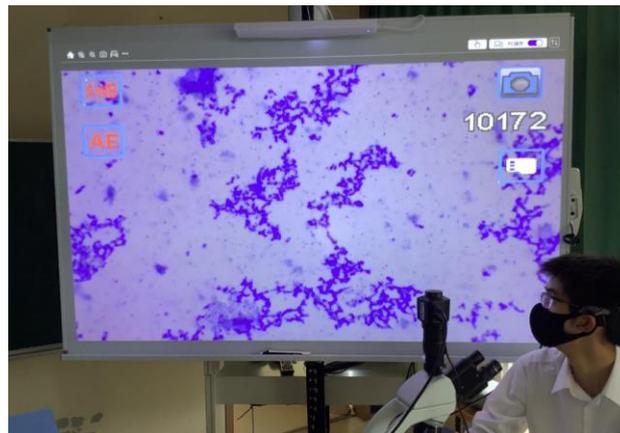
取組②の概要

特別支援学校（聴覚障害）中学部の理科の授業において、デジタル顕微鏡の画面をスクリーンに投影することで、生徒同士が観察の様子を共有できるようにした。デジタル顕微鏡とプロジェクターの倍率が異なるため、観察前にはプレパラートを上下左右に調整し、対象が画面中央に位置するように留意した。

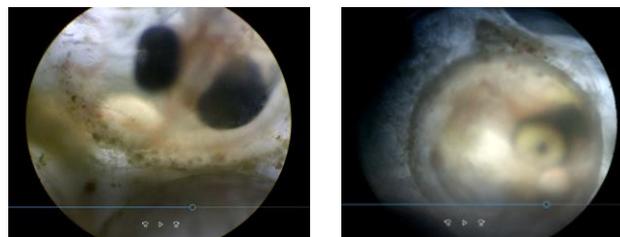
また、ICT端末のカメラのレンズを光学顕微鏡の接眼レンズに当てて動画撮影し、スクリーンに映し出すことで、卵の中にあるメダカ（稚魚）の血液の流れを複数の生徒で繰り返し観察できるようにした。根の先端の観察では、細胞分裂の時期（前期、中期、後期、終期）の異なる細胞が複数観察できるため、生徒の言語活動が活発化し学びが深まった。

<活用したICT>

スクリーン、プロジェクター、ICT端末（カメラ）、デジタル顕微鏡



中学部 理科：DNAの観察



中学部 理科：血液循環の仕組み

(授業の様子)

取組の効果

- 顕微鏡で観察したものをICT端末で撮影することで、生徒がじっくり考察しやすくなった。
- 観察の様子を生徒間で共有することで、主体的・対話的な学びにつながった。